

## 会議録

1. 附属機関の名称 : ヒツバタゴ保存活用計画策定委員会
2. 開催日時 : 令和5年5月15日(月) 午後5時00分から午後6時40分まで
3. 開催場所 : 犬山市役所 4階 401会議室
4. 出席した者の氏名
  - (1) 委員 林進、増田理子、玉木一郎、赤塚次郎、半谷美野子
  - (2) 執行機関 長谷川教育部長  
歴史まちづくり課 加藤課長、渡邊課長補佐、大前主事
  - (3) その他 オブザーバー 愛知県民文化局文化部文化芸術課文化財室 山内技師  
支援業者 (株)環境アセスメントセンター 美馬、栗原、杉森、出縄、近藤
5. 報告・協議事項
  - (1) 令和5年度実施事業
  - (2) 環境調査状況報告
  - (3) ヒツバタゴ自生地の課題整理の方向性
6. 会議要旨
  - (1) 令和5年度実施事業  
(事務局より資料に基づき、令和5年度実施事業について報告)  
委員1:池の植物調査は実施するのか。資料2のリストに池の大切な植物が入っていない。ヒツバタゴへの影響ではないが、西洞池の重要な植物は確認していただきたい。  
委員2:早春調査ではまだでていなかった可能性がある。

事務局:早春、4月7日調査ではまだ水面に出ていなかったため、確認していない。ただし、西洞池の水  
生植物群落は、特定植物群落という位置づけであることから、調査対象と考えている。夏季調査  
では池の植物もしっかり押さえていく。

委員3:センサーカメラの調査はずっと設置して一年間撮影するのか。

事務局:春季調査は5月2日に設置し、1ヵ月間撮影する。また、夏季に再び設置し、1ヵ月間撮影すると  
いう計画である。

委員3:果実が実ったとき、鳥も関係するが、落下した実を動物がたべて散布者になっていることも考えら  
れる。冬になっても木に実がついているイメージはあるが、果実が落下したあと、冬ぐらいまで季  
節ごとに撮影したらどうか。

事務局:季節ごとに区切って2回実施する計画であるが、ご意見については検討する。

委員1:犬山市にはあちこちにヒツバタゴがあるため、よく見ているが、動物が食べているのは見たことが  
ない。糞が落ちているのも見ていない。外側の皮がきれいに取れているのを見たことがあり、鳥は  
食べているかもしれない。鳥は散布者になるかもしれないが、地生えはでないかとみていた。

委員3:シデコブシの赤い実も食べたら美味しくはなかったが、ネズミが食べていた事例がある。鳥が食べ  
るのであれば、小動物も食べるかもしれないと思う。

委員2:マメナシの実も美味しくはないが、タヌキがよく食べる。

委員長:自宅にヒツバタゴがあり、ヒヨドリがよく来て食べる。動物はこないが。

委員長:市内の南の方のヒツバタゴが枯れてきていて、ウスバカミキリが入っている。斜面のものは枯れ  
ず、地下水などが関係する平地のものが枯れる。若干水が溜まって弱ったところに虫が入りやす  
い。自生地の上流側7番の個体は、溜池の土砂が横に置かれ、水が溜まりやすくなり根が弱った  
ところに、カミキリムシ、シロアリが入って枯れたという事例がある。今回調べている地下水位はそ  
の点でありがたい。

委員4:今回の調査や委員のお話を聞き、相当なことが分かってきたが、風や年間の日照時間などは、自  
生地の環境として調査対象にはならないか。

委員長:日射量は円球カメラで撮影すれば、把握できる。

委員4:なぜあそこに自生地があるのかがわかれば、保存活用計画の方向性が見えてくるのではないか。

表層だけでなく、地下の地質がわかれば、花崗岩の延長上に東海地域に特徴的なものがあるという話も聞く。

事務局：日射量や地質の関係は、林委員とまたご相談させていただきたい。

委員 2：地質を調べて、何が言えるかは難しいかもしれない。ボーリングは何十万もかかるが、何本も掘らないと様子がわからない。コストに見合う成果が得られるか。ヒツバタゴは明るい場所を好む。傾斜が緩やかになった場所で、過去に土砂崩れがあり土壌が溜まり、明るくなったところに生えているのではないか。

委員 4：広く入鹿池、本宮山などの地図を見ると、地下に花崗岩が広がり、西洞の谷の向きは梅雨時に一番太陽が入ってくる方向である。そのようなことが自生地の誕生に影響しているのかと思う。

委員 2：明るさはかなり重要なので、明るさの測定は必要かもしれないが、最適な明るさがわかるかという点、成長量と明るさの相互関係はまだわかっていないので、難しいかもしれない。方法としては、実生の芽生えた場所で明るさを測定し、芽生える条件が認識されると更新がうまくいくように使えるかもしれない。6～7本実生個体がある。ただし、既に発注されているため、新たな調査が追加できるか。実生個体の場所の明るさを測定し、自生地全体をその条件にもっていくという考え方はできる。

委員 2：地形など諸条件も関係するが直遮光が適度に入ること、花崗岩はミネラル成分であり、窒素、有機体がどのように金属と結合し、土壌に関連しているか。

委員 1：その土壌環境は自生だけの問題か、犬山の各所にヒツバタゴがあり、植樹されたものは他で生きてはいける。

ワザバー：保存活用計画について、施設の生物の天然記念物では日々状況が変わっていくことがあるため、調べてわかったこと以外に今後の課題として、保存活用のために必要な調査などをまとめていただくことが重要である。日照などの件も果たして影響があるのか、長い年月で見なければいけないこととすれば、それを保存活用計画に盛り込んでいければよいと思う。

委員長：活用に関して、小学生に保護活動に参加してもらい、次の世代につなぐことも考えたい。生育条件などわからないことも保存活用計画に残していく。

## (2) 環境調査状況報告

(事務局より資料に基づき、環境調査状況について報告)

委員 1：植生図作成の段階では、昨年委員会で見に行ったハナノキは表示されるか。

委員 2：早春、4月7日調査ではまだ展葉していなかったのではないか。

委員 1:利用状況について、尾張北部とあるが、そのうち犬山市の人はどのくらいあるか。中日新聞を見て初めて知り、見に行ったという人がフェイスブックで 2 人いた。あとから広報を見て知ったという人もいた。

事務局:利用者が多く、聞き取りで確認した方と、車両票で確認した方がいる。徒歩で来られた近隣の方以外、車で来訪された方に聞いた中では犬山市内という方はいなかった。

委員 1:自分は 5 月 8 日 10 時頃行ったが、近所の方 1 人しかいなかった。中央の木だけ花があった。ゴールデンウィークが過ぎると人がこないのかと思った。

委員 3:自分は 5 月 8 日 11 時頃、学生と行ったが、帰りがけに小学生が向かっていた。その頃から来訪者が来ていたようだ。

委員長:地下水位について、犬山の地下水は一層構造であり、全般的に降雨後すぐに流れてしまうという、地下水が貧困な地域である。地点 2 では石垣が積まれている関係で水がすぐには流れていかないのかもしれない。環境課には犬山市全域の地下水位データがあるため、参考にするとよい。自分も地下水に関する観測をしてきているので、データがある。

事務局:既存データも活用させていただく。

### (3) ヒツバタゴ自生地の課題整理の方向性

(事務局より資料に基づき、ヒツバタゴ自生地の課題整理の方向性について提案)

委員長:保護柵がテーマになっているが、人以外にも、野生動物も対象に考えてほしい。

委員長:「周辺」との定義はどうか、「市内」のほうがよいのではないか。

委員 4:「周辺」でよいと思う。

委員長:犬山里山学センターも環境学習施設なので、活用範囲については市内の施設として活用していただければよい。

事務局:犬山里山学センターを拠点としてヒツバタゴの方に歩いて行きながら、環境学習を行い、また帰っていくというイメージで考える。

委員 2:ゾーニングについて、今の自生地は、ヒツバタゴが自然に生えている範囲をフェンスで囲っていると思う。ゾーニングをしてしまうと、将来、ヒツバタゴが周囲に移動したくなるときに範囲を超えてしまう。指定地は周辺に広くあるので、指定地全体を囲うなど、余力をもって考えたい。気候変動で崩壊なども起きる可能性があり、ゾーニングでは広い範囲をとったらい。

委員長:フェンスはもっと後ろにしてよいと思う。水路を移動できればよいが、これらは委員の意見も踏まえて今後検討願いたい。

委員 2:その他貴重種の保護について、外来種以外はすべてを含めて自生地として扱い、草刈りなど配慮して欲しい。

事務局:自生地としての保存活用を検討する。

委員 4:活用について、不特定多数の人が立入できる範囲が不明確だと、どうしても踏み込まれてしまうため、特に自生地は区割りについて話を詰めたほうがよいと思う。それと同時に市民があまり来ない状況を解消したいのであれば、駐車場、通路など、どういう導線で来訪できるか、チラシやパンフなど紙ベースの資料も用意したらよいと思う。ただし、自生地の保存との狭間についても検討していく必要がある。

事務局:指定されてちょうど 100 年であり、次の 100 年を見据えた保存が大前提である。大きな考え方は事務局でも持っているが、確かに利用との狭間については、悩みどころである。開花情報を流しながら、あまり大勢になると心配になるが、根底には皆さんで守っていこうという普及啓発をベースにしていきたい。

委員 4:難しい問題だが、皆で見ながら保存していかないと傷んでくる。

委員 1:盗掘が心配である。ヒツバタゴも自生個体が欲しいと考える人もいる。

ワザバー:豊橋市の葦毛湿原では、重要種の盗掘もあるが、栽培種のサギソウの種をまかれるなどの問題もある。防犯対策も課題の一つであり、特に立入を制限する範囲をどうするかなど、ゾーニングと共に検討する必要がある。

委員 2:他事例で、「DNA バーコーディングしているので盗んだらわかります」などの看板設置もある。

委員長:自生地では今のところ盗掘はされていない。ササが茂っていると指摘されたことがあるが、自生地であるため、ササは選定して刈っている。

委員長:西洞池の改修工事は終わっているか。周辺については、活用よりもどのように整備するかを考えたい。西洞への入口にある産廃は課題ではあるが、過剰な出入りの抑止効果にもなっている。守る

立場からすると、あまり多くの来訪は好まない。

事務局：西洞池の工事については確認しておく。

委員 1：臨時駐車場はだれのものか。

事務局：臨時駐車場は愛知用水の管理地であり、開花期間だけ駐車場として市で借用している。

委員 4：今回の調査で、ヒツバタゴの周囲の斜面について、植生も明らかになるが、以前は周囲の林も切って利用していたと思う。今後斜面の林も管理が必要になるのではないか。希少種もあるのであれば周囲の林もヒツバタゴを含む生態系の保全として考えたかどうか。長期的な視点で考えてほしい。

委員長：保存活用計画は、まず実現可能性も含めて提案いただき、この委員会で確認していくようにしたい。実施にあたっては、年間計画をチェックしていくことになるが、できたのか、できなかったのかを確認していく。その際、やったけれどもできなかったのはよいが、やらなかったのは許されない。提案倒れになってはいけないので、それは行政とのすり合わせを柔軟に行うことになると思う。